

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に22字×33行、横書きで作成する。手書きの場合は、原稿用紙を送付しますのでご請求下さい。
2. 原稿の1枚目には表題、投稿者名、所属機関名（郵便番号および住所）を記す。2枚目以降の記述形式は特に定めないが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設ける。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入する。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下とする。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 独立行政法人・動物衛生研究所 小林秀樹」宛とする。

〔編集後記〕

抗菌性飼料添加物（AGP）や化学療法剤の多用によって生じる薬剤耐性菌が人の健康に影響するのかどうか科学的には解明されていない。ただ、耐性菌がないほうが人の健康にとって安心であるということである。ここで耐性菌が人の健康で問題となるのは、化学療法による治療がうまくいかなくなることである。

このことは農場の衛生対策でも同じことがいえ

る。今まで効果のあった薬剤の効きが悪くなったとか、使っても全く効かなくて薬剤を変えざるを得なくなった等の情報をよく聞くようになった。実際、肺炎起因菌種の薬剤感受性試験の成績をみてもここ10年で耐性菌の占める割合が増加している。これらのことは、不適切な化学療法剤の使用が原因であるとしかいいようがない。というのも、AGPの使用状況は10年以上前と根本的な違いがないことからいえる（ただし、AGPは腸内微生物に直接作用するので長期間の使用による腸内微生物への影響はあるかもしれない）。

SPF養豚は治療のために余計な衛生費をかけなくてすむばかりか、仮に疾病が発生しても原因が検索しやすくさらに高い薬剤効果が期待される。健康な豚の生産は消費者が最も望んでいることであると同時に、生産者にとっても経済的においしいはなしである。

（小林秀樹）

「All About Swine」

第25号 2004年9月発行 定価1,500円

発行所 日本 S P F 豚 研 究 会

〒305-0856

茨城県つくば市観音台3-1-5

動物衛生研究所

事務局 (株)伊藤忠飼料研究所

予防衛生チーム内

〒325-0103

栃木県黒磯市青木919

Tel : 0287(64)3652

Fax : 0287(63)8384